

第1学年 生活科学習指導案
第5学年 住田ゴールドタイム活動案

日時：平成18年10月20日（金）5校時 場所：世田米小学校 体育館ほか
児童：第1学年 男17/女7 計24名 第5学年 男17/女14 計31名
園児：年長組（5歳児） 男10/女19 計29名
指導者：教諭 内海晶子 紀室浩（小） 主任保育士 紺野留実子 保育士 菅野初子（保）

1 単元名	1年	生活科	「いってみよう やってみよう」
	5年	住田ゴールドタイム	「ぶどう組さんと交流しよう」（ボランティア教育）
	園児	人間関係	「わくわく、がっこうたんけん」

2 単元について

(1) 単元について

・1年生

本単元は、学習指導要領の内容(1)「学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友だちのことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。」に基づいて設定した。

児童は、1学期の生活科「みんなでいこう」「じぶんでたんけん」の活動から、校舎のおよその造りや学校で働く人々の様子、校舎内での歩行の仕方・校庭で遊ぶ時のきまり等について学習した。

それらの経験をふまえ、本単元では、さらに学校生活に自信をもって楽しく取り組めるよう子ども達が自分の願いをより意識した繰り返しかわる活動や活動の気づきの共有、さらに身近な人に伝える活動を行うことにより、よりよい主体性を育み、自立の基礎を養うことをねらいとしている。

・5年生

住田町は「心豊かで生きがいのある生活の創造と連帯意識に満ちた活力ある地域作りを目指し、生涯にわたる学習活動の充実と地域活動への参加機会の拡大を図る。」ことを教育の基本施策としてあげている。そのために、「共に生きる地域作りのためのボランティア活動の促進」を重視している。

学校におけるボランティア教育の目的は、「自発性、無償性、公共性」といったボランティアの精神を体験的に理解し、よりよき社会人としての資質の向上を目指して「自分づくり」を図ることである。あくまでも児童のボランティア活動に対する認識を深め、将来に向かってボランティアとしての活動意欲を高めることが重要になってくる。保育園児をお世話することで年長者としての自覚を持たせ、いろいろな体験や人々とのかわりの中で、他の人々から必要とされている自分を発見し、さらに、人々のために役立っている自分を見つけたり感じたりできるように配慮しながら支援にあたり、満足感や達成感を持たせながら進められる単元であると考えられる。

そのため、本単元の構成を「初めての出会いの場面を持ち相手（園児）を知る」、「知り合った園児と更に親しくなる」、「親しくなった園児のお世話をする」という3段階で組み、各段階で身につけさせたい力を明らかにした。

- ・園児

園児は、遊具で一緒に遊んだり、水泳をして何度か交流を深めたことにより、1・5年生に親しみを感じ、小学校への思いをふくらませている。また、就学に向けての知能検査や就学時検診などが行われるこの時期、少しずつではあるが、学校への興味・関心が具体的なものとなっているようで、お兄さんやお姉さんと仲良くなりたいという気持ちも更に大きくなっている。

そこで、1年生や5年生と一緒に校内を楽しく見学し、実際に教室めぐりや児童の机に向かう体験や体育館の見学を通して、就学への期待感や小学校生活への意欲を高めさせ、園児が安心感を持てるようにしたいと考え本単元を設定した。

(2) 児童と園児について

- ・1年生

児童は、新しい環境での集団生活にも慣れ、明るく、元気に、活発に学校生活を送っている。また、学習への興味・関心が高く、何事にも意欲的に取り組もうとする児童も多い。

これまでの学習から、学校の施設や設備、そこで働く人々の様子を知ることにより「かかわり」のおもしろさに気づき、一層の自信と楽しみをもって毎日の生活を送っている。最近では、「もっと探検したい。～を教えてください。」など、活動に対する意欲と関心をふくらませるなど、学校生活への主体性と意気込みを感じる。さらに、「そとにいこうよ」では、世小の森公園の探索後に保育園の訪問を行い、年長児と一緒に遊んだことにより、親しみとかかわりを深めることができた。

その後、校庭遊びやどろだんご作り、水遊びなどの学習を通して、グループ学習やペア活動による交流を深め、相手を意識する気持ちや他者を気遣う心、お世話することの満足感などを感じながらかかわっていこうという児童も出て、交流による意識の変化を感じてきている。

反面、自分の思いをうまく伝えられなかったり、自己中心的な言動によるけんかやもめごとをおこしたりするなど、争いごとが絶えない現状もある。

- ・5年生

児童は比較的明るく、働くことについてもまじめに取り組むことができる。今年度、5年生は本校の運動会の総練習で世田米保育園の年長児と初めて接する機会を持った。年長児を、手をつないで入場門からスタートラインまで導き、ゴール後に入場門まで連れて帰るというものだった。わずかな交流ではあったが、初めて出会った園児に対して一生懸命お世話しようとしていた。また、この交流を通して小さい子への愛着心を持てた児童もいた。6月には年長児とグループごとに顔合わせをし、本校の遊具で一緒に遊ぶという交流会をもった。この交流では、園児が小学校で楽しい経験ができるように話したり、遊んだり、導いたりすることを心がけ、その苦勞を味わいながらも、園児の楽しんでいる様子から喜びを感じることができた。

しかし、5年生の活動の中には自己中心的な面も見られる場合があり、相手の立場になって物事を考えたり、他人のために働いたり、気を配ったりすることができない児童もいる。また、他者との関わりの中で、言い争いがあつたり、泣いたり、けんかしたりするなどトラブルが起きることもある。

- ・園児

園児は、明るく元気で伸び伸びとした子ども達である。人との関わりが不得手な子や言葉の理解が遅れがちな子も多いため、友だちとうまく接することができなかつたり、自分の思いが通じないと怒つたり、泣いたり、叩いたりする子も多く、トラブルは絶えない。

現在、園では、各自のめあてを決めて意欲的に取り組む活動（一輪車・なわとび等）を積み重ねることにより、自分の力を十分に発揮し

ながら友だちと協力して運動会に向け活動している。

これまでの小学校との交流を通して一緒に遊んだり泥だんごを作ったりしながら、少しずつではあるが、お兄ちゃん達の名前と顔を覚え、「あのお兄ちゃんと友だちだよ」「鬼ごっこしたよ」「泥だんご上手だったね」という親しみを持ち始めている。

更に、先日のプール交流では、1年生と一緒に水遊びや宝探しをして「大きいプールだったね」「また、プールでおよぎたいね」など楽しく感じた子どもが多かった。

しかし、水遊びが苦手な子どもにとっては「深くて怖かったよ」「シャワーが嫌だったよ」など、水への抵抗感や学校施設への新しい不安を持つ子も出始めている。

(3) 活動にあたって

・1年生

自立の基礎を養うためには、児童自身が興味関心のある学習活動を進んで行き、自分の思いや考えを表現することが大切である。「やってみたい。～してみたい。」ことを意図的に考えさせ、主体性をもって取り組ませ、その一連の学習過程の中から「学び」を作り上げさせたい。

そのためには、まず、前単元での活動を想起させることにより、各自の思いをもたせていく。それぞれの思いを学級内で紹介し活動への思いを高めていく。自分のめあての達成に向け、お願いの仕方やかかわり方を児童自身に考えさせ紹介し合い、活動のよさに気づかせながら、適宜支援していく。児童が活動する中で見つけたこと、気づいたことを「みつけたよコーナー」に掲示することで、互いの活動や気づきをより広げたり深めたりしていく。また、活動の仕方について振り返らせることにより、友だちのよさやなかよく過ごすことの楽しさにも気づかせていきたい。

本時は、児童が園児に対して「お気に入りの場所」紹介し、実際に案内する活動を通して学校生活の楽しさや学習の様子を知らせながら、かかわりをさらに深めていく。これまでの活動を生かし、他者に気遣いながら、児童と園児がいっしょに活動することによって互いの心情を深めさせ、また、児童の主体性と気遣いに注目しながら必要に応じて支援を行い、安全にも配慮しながら進めたいと考える。

そうした活動を通して、相手を思いやりみんなと協力していこうとする児童をめざし、「自立の基礎を育てる」という本研究の主題につなげていきたい。

・5年生

本単元の活動において異年齢交流を行う中で、5年生から見ると相手が弱者（園児）であることから、5年生は相手の立場を十分に考え、相手のためになるような行動や言動などに気を配りながら活動するものと思う。それによって、相手（園児）が楽しく活動する様子を見ることで、他人の役に立つ経験や自分の存在の大切さに気づき、達成感や満足感を得ることによって、日常生活の中にも他を思いやる行動も見られるようになるであろう。自他の行動を振り返り、自分の行動や考えを見つめ直し、自己の生き方を考えていくことで「自己評価力」を高め、自立の基礎を育てていきたい。

園児が楽しく活動するためには、事前に5年生が園児の興味・関心の高いものを把握しておかなければならない。そのためには5年生は保育士やALTなどから園児に関する情報を収集したり、1年生の担任から交流内容を確認したりする必要がある。また、活動のねらいや5年生の願いを保育士に理解してもらったり、5年生に対しての保育士や1年生担任の情報や助言を確実に活動に生かしたりするために、担任同士の連絡調整をこまめに行っていききたい。特に、園児の中には人との関わり合いが不得手な子もいるので、保育士に学習のねらいの達成のためのサポートをしてもらえるようにしていきたい。

他者（園児）に対して思いやりの気持ちを持ち、それを態度に表せるようにするためには、生命を尊重する気持ちが必要である。道徳や性教育と関連を持たせながら豊かな人間性を養えるように進めていきたい。

・園児

これまでの交流を振り返り、学校での楽しいことやお兄さん達との交流を思い出しながら「学校探検」について子ども達と話し合いを持ち、「学校にはどんな教室があるのかな」「学校ってどんなことをするところかな」など、活動に期待が持てるようにさせる。また、子ども同士の間わりを大切にするように担任同士の連絡も十分にとりながら、ねらいや内容や活動を確認し合い共通理解を図るようにする。

1・5年生と一緒に活動することで「小学校は楽しいところ」「小学校には、優しいお兄さん、お姉さんや先生がいる」という安心感を持たせ、人と関わることの楽しさや他人に対する信頼感、思いやりの気持ちを育て、小学校生活へのなめらかな移行ができるよう努めたい。

3 単元の目標

・1年生

- (1) 施設や人と繰り返しかかわる中で、学校生活のよさに気づき、楽しく生活しようとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 自分のめあてをもとに、体験したことや気づいたこと、楽しかったことを身近な人に伝えることができる。 (思考・表現)
- (3) 施設や他者に愛着をもち、親しくかかわりながら学校生活を送る楽しさに気づく。 (気づき)

・5年生

- (1) 自分と園児との年齢差や発達の違いを認識して、幼い子と交流するための自分なりの課題を持つことができる。 (課題設定力)
- (2) 保育士や1年生担任などから園児との交流のために必要な情報を収集し、適切に選択・活用することができる。 (課題追究力)
- (3) 活動することや説明内容を分かりやすく表現し、伝えることができる。 (表現力)
- (4) ボランティアの精神を体験的に理解し、よりよい自分を目指そうとすることができる。 (自己評価力)

・園児

- (1) 小学校を知ることにより、学校に興味、関心を持つ。 (環境)
- (2) 学校探検を通し、小学生や先生に親しみやあこがれを持つ。 (人間関係)
- (3) 気づいたことや、思ったことを言葉などで表現する。 (言葉)

4 単元の活動計画

(1) 1年生 「いってみよう やってみよう」 (11時間)

段階	時	学習過程	学習活動	目 標		準備/時期
				1 学 年	保 育 園 児	
1	1	1 やってみたいことに ちょうせんしよう	・「みんなでいこう」「じ ぶんでたんけん」の活動 をもとに、自分でやって みたいことや、もっと行	・自分のやってみたいこと を見つけようとする。 ・活動の仕方を意識したり、 考えたりする。		・前単元の写真 ・カード

			ってみたいところなどを話し合う。			/ 9月
2	2 3 4	2 もっとなかよしになろう	・自分のめあてや願いをもとに、人や自然、ものより深くかかわる。	・自分のめあてをもとに、人や自然、ものや場所とのかかわりを広げたり深めたりする。 ・活動でかかわった学校の人や自然、行った場所などに親しみ、愛着をもち、学校生活の楽しさに気づく。		・やくそく ・カード ・「みつけたよコーナー」の設置 ・おきにいりマップの設置
3	5 6 7 8	3 おきにいりをおしえあおう	・活動を振り返り、活動したことやかかわった自然や人々について友だちに伝える。	・気づいたことや楽しかったことを自分なりにまとめ、友だちなどに伝えようとする。 ・活動で気づいたことや楽しかったことを絵や文章でまとめることができる。		/ 9月 ・カード
	9 10 11	4 ここがぼくたちのがっこうだよ	・活動を振り返り、学校内で知ったことやかかわった人について保育園の友だちに教えることを考える。 ・学校内で知ったことやかかわった人について保育園の友だちに教える。 (本時)	・活動を振り返り、学校内で知ったことやかかわった人について保育園の友だちに教えることを考える。 ・学校内で知ったことやかかわった人について、保育園の友だちに知らせる活動を通して、みんなとなかよく過ごすことの楽しさに気づく。 ・気づいたことや楽しかったことを自分なりにまとめ、友だちなどに伝えようとする。	・学校探検を通して親しみを感じる。 ・園に戻り、発表ごっこをする。	/ 10月 ・画用紙 ・案内絵本 ・案内絵本
			・活動を振り返り、活動したことやかかわった自然や人々について友だちと話し合う。	・気づいたことや楽しかったことを自分なりにまとめ、友だちなどに伝えようとする。		/ 10月 ・カード

(2) 5 年 生 「ぶどう組さんと交流しよう」 (1 4 時間)

段階	時	学習過程	学習活動	身につけさせたい力		準備 / 時期
				5 学 年	保 育 園 児	
1	1	1 オリエンテーション	・ ボランティア活動の意義や内容について資料をもとに考える。	・ ボランティアについての知識を深め、活動への意欲を持つ。		・ ボランティア資料 ・ ファイル / 5 月
2	2	2 保育園へ交流の依頼文を書く。	・ 交流をお願いし、ぶどう組さんの好きな遊びを聞く。	・ 依頼文の書き方を知る。 ・ ぶどう組さんの好きな遊びがわかる。		・ 依頼文見本、用紙 / 6 月
3	3	3 ぶどうさんとの顔を合わせる。 * 交流	・ 1年間一緒に活動するグループのぶどう組さんと親しくなるために校庭の遊具で遊ぶ。	・ ぶどう組さんのお世話をしながら、ぶどう組さんと親しくなり、人のために役に立った満足感を味わう。	・ 学校の遊具で一緒に遊び、楽しむ。 ・ 園に戻り、発表ごっこをする。	・ ハロウィンの写真 ・ 名札 ・ ハロウィンかぼちゃの苗 (園から) ・ 遊びの絵 ・ ホイッスル / 6 月
	4	4 振り返りをする。	・ ぶどう組さんとの顔合わせについて振り返る。	・ 自分の良さや課題について考え、今後の活動に役立てようとする。		・ ファイル / 7 月
4	5	5 かぼちゃの苗を植える。	・ ハロウィンの飾りに使うカボチャを植える。	・ ぶどう組さんのハロウィンのためにがんばろうと思う。		・ かぼちゃの苗 ・ 移植ペラ / 6 月
	6 7	6 ハロウィンについて調べる。	・ ハロウィンについてパソコンで調べたり、マーク先生から聞いたりする。	・ パソコン操作の技能を高める。 ・ ハロウィンについて理解し、活動への意欲を持つ。		・ パソコン ・ ファイル / 9 月
5	8 9	7 英語ゲーム遊びの準備をする。	・ ぶどう組さんと1年生が喜ぶような集会を考える。	・ 相手意識や目的意識を持って活動内容や表現方法などを意欲的に考える。		・ 英語ゲーム資料 ・ ファイル / 9 月
	10	8 ぶどうさんと1年生と交流会を開く。 (英語ゲーム遊び) * 交流	・ ぶどう組さんと1年生が楽しめるように会の進行のお世話をする。	・ 自分たちで考えた集会を成功させるために精一杯活動する。	・ 英語のゲームで一緒に遊び仲良くなる。 ・ 園に戻り、発表ごっこをする。	・ ファイル / 9 月
6	11 12	9 学校探検のお世話をするための準備をする。	・ ぶどう組さんが探検する教室等の紹介方法を考え	・ 相手意識や目的意識を持ち今までの活動を生かしなが		・ ファイル

<p>つかむ</p> <p>5分</p>	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 めあてと約束を発表する。 ・園児と1年生のめあて、探検上の約束を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">お世話をがんばろう</div>	<p>1. あいさつをする。</p> <p>2 めあてと約束を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">がっこうをあんないしよう</div>	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 めあてと約束を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">がっこうをたんけんしよう</div>	<p>1 年長児を真ん中にしてグループごとに並ぶ。5年生の進行係は前に立つ。</p> <p>2 約束は、安全に関わる内容や校則に関わる内容を中心に考えさせる。 ・廊下や階段は静かに歩く。 ・教室に入るときは挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてカード ・約束カード
<p>活動する</p> <p>30分</p>	<p>3 5年生探検サポートの配置につく。 ・最初の探検場所を保健室、1年教室、英語教室、図書室、体育館とする。</p> <p>4 探検のサポートにつく。 ・5年生は1年生が気づかないところやできないことをクイズに出したり、演技をしたりして各探検場所で園児と1年生を迎える。また、探検コースを通過した証として園児の探検カードにシールを貼る。タイムキーパーの役割も行う。 ・誘導係 ・紹介サポート係 ・シール係 ・写真係</p>	<p>3 1年生が説明して探検コースを確かめる。 ・グループ毎に、「ミニあんないえほん」で、今日の探検コースを知らせる。</p> <p>4 6グループごとに探検案内を始める。 ・前の活動の時と同じ友だちと手をつなぎ、案内する。 ・探検場所の表示や案内絵本を準備する。</p>	<p>3 1年生の説明を聞き、探検コースのだいたいを知る。</p> <p>4 6グループごとに学校を探検する。</p>	<p>3 探検コースは楽しい場所を紹介するという観点で1年生に考えさせる。ほかの教室等は2月に紹介する。</p> <p>4 グループごとに教師見取り隊(6名)がつき、活動の様子を見る。(園児や児童の行動等のよさ、安全指導) ・1年生にはこれまでの活動で見つけたことを、積極的に教えることができるよう、場所毎に教えたいこと話し合わせしておく。 ・5年生には、1年生が紹介できない内容を説明させる。また、園児が楽しく探検できるように、探検場所の特徴がよくわかるように探検場所の設定を工夫させる。 ・2グループを最初に体育館の探検をさせ、各グループが重</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ案内絵本 ・体育館 体育用具 ・1年教室 机と椅子 ・保健室 先生 ・図書室 図書の配置 ・音楽室 楽器の準備 ・英語教室 マーク先生と相談して ・通過証・シール ・時計 ・探検カード ・ハロウィンかぼちゃ

				<p>ならないようにしたい。 ・全部の探検場所を回れなくても2月にも探検できることを告げ、あわてさせないようにする。(達成感を持たせるように探検カードを工夫する。)</p>	
まとめ 10分	<p>5 体育館に集まり、まとめをする。 ・並び方を指示する。 ・グループごとに車座になり話し合う。 ・5年生が進行し1年生と園児から感想等を聞く。</p> <p>6 先生の話を書く。</p> <p>7 終わりのあいさつをする。</p>	<p>5 体育館に集まり、まとめをする。 ・園児と手をつなぎ、話し合う場所に誘導する。 ・グループごとに車座になり話し合う。 ・感想等を発表する。</p> <p>6 先生の話を書く。</p> <p>7 終わりのあいさつをする。</p>	<p>5 体育館に集まり、まとめをする。 ・1年生と手をつなぎ、話し合いの場所へ移動する。 ・グループごとに車座になり話し合う。 ・感想等を発表する。</p> <p>6 先生の話を書く。</p> <p>7 終わりのあいさつをする。</p>	<p>5 できるだけ、園児や1年生に直接指示せずに、5年生に支援を与えるようにする。</p> <p>6 園児や児童の交流の仕方でもよかったところを話す。</p>	<p>・旗立台 ・バインダー</p>

(3) 評価

1年生

- ・学校内で知ったことやかかった人について、積極的に保育園の友だちを案内しようとしたか。
- ・みんなとなかよく過ごすことの楽しさに気づくことができたか。

5年生

- ・活動することや説明内容を分かりやすく表現し、伝えることができたか。
- ・園児や1年生と話したり、考えを伝えたりして、互いに理解し合うことができたか。
- ・園児のために役立ったという満足感を得ることができたか。

園児

- ・小学生や友だちと学校探検を楽しむことができたか。